

高知県大岐川で採集されたヒラモクズガニ

山川宇宙¹・清水孝昭²・山本貴仁³・山下龍之丞⁴

¹ 筑波大学大学院生命環境科学研究科生物科学専攻

² 愛媛県農林水産研究所水産研究センター

³ 西条自然学校

⁴ 東京海洋大学大学院海洋科学技術研究科応用環境システム学専攻



写真1 *Utica borneensis* De Man, 1895
ヒラモクズガニ (TKPM-AR 3534)

種の記録

Varunidae モクズガニ科

Utica borneensis De Man, 1895

ヒラモクズガニ (写真 1)

標本 徳島県立博物館節足動物標本 (TKPM-AR) 3534, 1♀, 甲長 11.8mm, 甲幅 13.2mm, 大岐川(高知県土佐清水市大岐), 2025 年 9 月 17 日, 山川宇宙採集.

種の特徴

上記標本は, 甲が正方形に近い四角形. 背面は平たく滑らかで, 短い軟毛で覆われる. 前胃域には 2 つの隆起線がある. 眼窩外歯の後方に 2 歯を有する. 後側縁に明瞭な菱形の小平面がある. 第 3 顎脚の内肢の座節は外肢よりも幅が広く, 長節は外側角が突出する. 歩脚は細長く, 第 1–3 歩脚の長節の前縁先端に棘状突起があり, 前縁や後縁には軟毛が列生する. 以上の形態学的特徴が, 岸野ほか(2001)や仲宗根・伊礼(2003), 豊田ほか(2019)のヒラモクズガニの特徴と一致したため, 本種に同定された.

備考

本種はインドー西太平洋に広く分布し, 国内では琉球列島の各地から記録されている(岸野ほか, 2001; 成瀬, 2012; 外山, 2018; 豊田ほか, 2019; 国土交通省, 2025). また, 黒潮の影響を受ける千葉県および神奈川県, 三重県から標本に基づいて記録され(締次, 2015; 締次・木村, 2020; 乾ほか, 2021), 標本の有無は不明であるが, 高知県の四万十川でも 2022 年に採集されている(国土交通省, 2025). 本稿は四国

における本種の標本に基づく初記録となる. 本研究の標本は, 干潮時でも海水が存在する砂底に沈んでいた直径約 30cm の岩の下から採集された. 成瀬(2012)は, 本種の生息環境の 1 つとして感潮域の石の下を挙げており, 本研究の結果はこれに一致する.

謝辞

標本の登録を行っていただいた徳島県立博物館の鈴木佑弥学芸員に厚く御礼申し上げる.

引用文献

- 乾 直人・山川宇宙・碧木健人・是枝伶旺. 2021. 2019 年 9 月以降に相模湾およびその周辺地域から採集された注目すべきカニ類 7 種. 神奈川自然誌資料, (42):135–141.
- 岸野 底・米沢俊彦・野元彰人・木邑聡美・和田恵次. 2001. 奄美大島から記録された汽水産希少カニ類 12 種. 南紀生物, 43(1):15–22.
- 国土交通省. 2025. 河川環境データベース 河川水辺の国勢調査(<https://www.nilim.go.jp/lab/fbg/ksnkankyo/>, 2025 年 11 月 13 日参照).
- 仲宗根幸男・伊礼美和子. 2003. イワガニ科. 西田 睦・鹿谷法一・諸喜田茂充(編), 琉球列島の陸水生物. 東海大学出版会, 秦野. 272–282.
- 成瀬 貫. 2012. ヒラモクズガニ. 日本ベントス学会(編), 干潟の絶滅危惧動物図鑑—海岸ベントスのレッドデータブック. 東海大学出版会, 秦野. 206.
- 締次美穂. 2015. 本州初記録のヒラモクズガニ. 南紀生物, 57(1):46–47.
- 締次美穂・木村昭一. 2020. 三重県産ヒラモクズガニの記録. 南紀生物, 62(1):60–62.
- 外山真樹. 2018. 三浦知之氏寄贈甲殻類標本目録. 宮崎県総合博物館研究紀要, 38:5–72.
- 豊田幸詞・関慎太郎・駒井智幸. 2019. 日本産淡水性・汽水性エビ・カニ図鑑. 緑書房, 東京. 339pp.

(2025 年 11 月 14 日受付, 2025 年 11 月 15 日公開)

連絡先: 山川宇宙 (e-mail: uchukawaanago@gmail.com)
(Uchu Yamakawa, Takaaki Shimizu, Takahito Yamamoto and Ryunosuke Yamashita. 2025. *Utica borneensis* (Varunidae) collected from the Ooki River, Kochi Prefecture. NS Fieldnote, 25033)